

春風秋霜 10月号

平成27年10月1日
島田市教育委員会より
教育長 濱田和彦

春風を持って人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 議会答弁から

9月議会において、「全国学力学習状況調査において、夢や希望を育む指導をしていると回答した静岡県の小学校教員の割合は、全国に比べ大きく落ち込んでいるが、島田市の状況はどうか」という質問がありました。「島田市の結果は、県と同様の結果であったが、夢や希望を持っている子供の割合は、全国とほぼ同じ高い値を示した」と、答弁しました。

職場体験を行ったり、進学などの進路決定をしたりする中学校において、夢や希望を育むキャリア教育は、意図的に行われ、多くの教員が夢や希望を育む教育を行っていると感じています。しかし、小学校においては、普段行っている活動の中にキャリア教育が存在していると自覚していない教員が多いのではないかと思います。

ある研究会において、キャリア教育を幅広く捉える実践を聞いたことがあります。清掃や係活動も責任感を養うという点においてキャリア教育である。また、新しいことに挑戦したり、粘り強く物事に取り組んだり、コミュニケーション力を高めたりすることも、夢の実現に欠かせないことであり、キャリア教育だということです。つまり、人としてより良く生きるための力を育むことがキャリア教育と言うのです。

『夢ふくらむ文化活動推進事業交付金』を活用した取り組みや、帰りの会等で人の生き方に関わる話をする 것도、キャリア教育です。これまで日常的に行ってきたことをキャリア教育という視点で価値づけることが大切だと思います。

2 アイデア工作展表彰式に参加して

9月18日（金）にアイデア工作展の表彰式が行われました。おおりににはたくさんの作品が展示され、市長賞には、川根小の米沢さん姉妹の『えんぴつミノムシの宝物入れ』が選ばれました。短くなった鉛筆をケースに張り付けて宝物入れにし、流木で作った木に強力磁石で着けたり、外したりできるように工夫されていました。

教育長賞に選ばれた作品は、島田二小の岩崎くんの『ワニ』です。2mもある迫力のある作品は、牛乳パックを自分で再生し、爪や歯を手作りした優れたものでした。商工会会長賞の初倉南小学校の井戸くんの『ぼくの宝物』という作品は、転校してきた自分に優しくしてくれたクラス全員を教室ごと作り上げたもので、思いのこもった作品だと感心しました。

市長は、挨拶の中で、「貧しい社会では、工夫して遊んでいる。何でも買える時代であっても、工夫してものを作ることは、生きる力につながるので大切にしたい。」と話していました。作品展に出品されなかった作品も多いと思いますが、工夫する気持ちを大切にしたい教育に心がけていきたいと思っています。



3 書道展での発見

9月22日(火)に静岡市民文化会館で行われていた八樓会書展という書道展に行ってきました。様々な作品が並ぶ中で、興味を持った作品は、にじみが文字の2倍以上もある作品です。にじみの中に文字の形がはっきり見えるのです。一見するとにじみの上から文字を書いたように見えました。

主催者の藪崎先生に話を聞くと、にじみの強い墨とにじまない墨をブレンドし、その墨に合った紙で書くとそのような作品になるということです。二種類の墨をブレンドすれば、それぞれの墨の中間の特質が表れるかと思いましたが、そうではなくそれぞれの性質を残した作品になるということでした。また、この墨の特徴は、重なりのある文字を書くと、後から書いた部分が先に書いた部分の下になってしまうということでした。

専門家と話をすると新しい発見があると思います。私は、自分の世界が小さく、知らないことがいかに多いかを実感しました。自分とは違う価値観や違う生活をする方と話すことの大切さを知った一日でした。

4 英語スピーチコンテスト

9月5日(土)に英語スピーチコンテストが行われました。島田市内だけでなく榛原地区からも参加者があり、応援する保護者も居て、おおりの大会議室はほぼ満席でした。参加者の緊張が伝わってくる中、生徒の皆さんはこれまでの練習の成果を発揮していました。このコンテストのように、他の人とは別メニューでがんばったことは、きっと思い出としてだけでなく、人生の財産になると思います。

このコンテストには、特別ゲストとして俳優の別所哲也さんがサプライズで参加しました。別所さんは中学生時代にこのコンテストに出場して優勝したことが、アメリカでの俳優業につながったと話されました。

コンテストに向けた各学校の関係者の皆さんの熱い指導に感謝します。指導時間を確保する難しさはあったと思いますが、先生方の指導が生徒たちの夢実現につながると信じています。ありがとうございました。

肘かけ椅子

浅田 敦 学校給食課長

「1枚の写真」

9月の連休に自宅の横にある倉庫の大掃除をしました。いろいろな荷物を片付けている中でふと、私の目に留まったものがありました。それは、白黒の古びた1枚の写真でした。その写真には、軍服姿のひとりの若い青年の姿がありました。母にこの写真のことを尋ねると、その写真の人物は、亡き祖父の弟で昭和20年に太平洋戦争で満州へ出征し、戦死したとのことでした。年齢的には、20歳くらいのように、痩せて見えるがきりっと締まった表情をしていました。よく小学生の頃、祖父から聞かされたことは、当時のほとんどの若者は、軍隊に招集され、厳しい訓練を受け、異国の戦地の最前線へ送り込まれたということです。また、終戦前後は、一般国民も食うや食わずの生活が続き、祖父や祖母は、8人の子どもを抱えて、毎日が苦闘の日々だったこともよく聞かされました。この1枚の写真を眺め、今、三度、三度の食事ができることに感謝の気持ちを強く感じながら、命と食べ物大切さを実感したひと時でした。